

# あだたら

第415号  
発行所 町会  
山部 山部  
郡山 山部  
あだ 山部  
編集 山部

五月二十一日(日)

## 第六十九回安達太良山開き 三パーティでパトロール実施

報告 事務局



●編集部連絡先  
二本松市町内1-5-15  
0243(22) 4245  
Fax可 渡辺 正

第六十九回安達太良山開きは、五月二十一日(日)に開催された。二〇二〇年の第六回から、新型コロナウイルス対策で、山頂での行事は中止されたが、今年から安全祈願祭・ミズあだたらコンテストが山頂開催となり、コロナ以前に戻った。

今年、当会は昨年引き続き三パーティのパトロール班を出し、登山客の安全確保に当たった。奥岳八時。▼A班①(四名)、A班②(五名)は奥岳ロープウェイ→山頂、▼B班①は奥岳→くろがね小屋→山頂(九名)、▼B班②は奥岳→(直行)→山頂(四名)、▼C班は塩沢登山口→湯川溪谷→くろがね小屋→山頂(五名)。

### A班①

報告・□□□□

山開きの五月二十一日は、早朝より天候に恵まれ、既に多くの登山客がゴンドラ乗り場に並んでいた。Aコースは、二班に分け、Aの①は、□□・□□□□さん・□□さん・□□さんであった。

九時出発予定だったが、ゴンドラ乗り場が空いて来たので、八時四十分に出発する。ゴンドラ着場の休憩所で時間調節し、九時二十分出発する。薬師パノラマパークに寄り、木道を行くと、道脇に、ツバメオモト

が咲いていた。もうすぐ二才に成ると言う可愛い女の子連れの若い夫婦。数人のグループで来ている人達が多く見受けられ、マスクをしている人は、殆どいなかった。段差がきつく、多くの人が登るのに大変で渋滞が出来る。見かねて、□□さんと□□さんが、大きな石を動かし、階段を作り、登る際に邪魔になっていた松の枝を切ると、渋滞が解消し、スムーズに登ることが出来た。(パトロールの一つの役目を果たす。)途中、周囲には、ミネザクラ、ミネズオウが咲いていた。仙女広場で休憩する。□□さんが体調不良でここで下山する。

十一時二十分山頂へ到着、式典、万歳三唱、ミズあだたらコンテストが行われ、昼食をとる。ナスビさんと集合写真を撮り、午後一時四十分下山出発する。ゴンドラに乗り、レストハウス三十分到着。都合により一足早く帰る。五時より、勤労者研修センターで反省会が盛大に行われた。宴会の準備をして

くださった□□□□会長に心より感謝申し上げます。

### A班②

報告・□□□□

山頂はやや風があつて式典などに影響はありませんでしたが警沢を言えばもう少し風が弱ければよかったです。天気も良く登山者が大勢おり久しぶりに賑やかな山開きでした。あちこちで乾杯の声なども聞こえてきて徐々にコロナ前に戻っていくんだなと実感。□□さん作の神棚もとても立派でかっこよかったです。(なすびさん真ん中の写真に付いて居たメモです、編集部)

### B班②

報告・□□□□

四年ぶりにお天気にも恵まれ通常山開きとなりました。後発、八時三十分発で、行き交う登山者と挨拶をしながら、登山道・馬車道と。Bの①コースのメンバーにも出会う。勢至平分岐で休憩し峰の辻へ。雪が少ないの思ったより水たまりはないが、下山者も言われてましたが足場が悪いです。いつもの休憩場で一息、階段、昨年置いてた材木もそのままです。ハンノキ林はまだ生い茂っていないので、見通

くざった□□□□会長に心より感謝申し上げます。

しよく広範囲にマイズルソウの群生が見られました。無線交信しながら峰の辻から稜線へ。風は、やはり強いです。下る登山者多かったです。山頂で昼食とり、全員揃うのを待ち、観光大使の なすび さんも入り

写真を撮り、一時三十分過ぎ下山。安達太良の大雪深も雪がなく、登山道も乾いてるなんて?、レストハウス前で無事解散。皆さまありがとうございました。反省会も和やかに終わられたことも良かったです。

追記、まもなくロープウェイ乗り場の所で、後ろから声をかけられ戻ったら「ツバメオモト」可憐な花をつけてる。何故ここに?、刘私には植物たちの特徴も知らないです。

### トイレテント

くろがね小屋改築のため、トイレが使えないが、岳温泉の「安達太良自然センター」は小屋の前に、携帯トイレ用の簡易テントを二基設置した。山開き当日だけだ。



仮設トイレテント



恒例テラス整列 15時44分

# B班

報告・□□□□

第六十九回安達太良山開きが晴天に恵まれた五月二十一日に行われた。今年も四年ぶりの通常開催ということもあり、コロナ禍の間、規模を縮小していた安全祈願祭、中止していたM.S. あだたらコンテストも復活し賑わいを見せていた。約四千人の登山客が山頂を目指して登っていく。山の会では、奥岳駐車場八時集合、駐車場の混雑が予想されることから、早めに自宅を出発。案の定、駐車場は混雑していた。今年も、昨年以上に県外からの登山者が多いと感じながら、集合場所に向かう。参加メンバーが揃い、打ち合わせを行う。コロナ禍明けの通常開催ということで、山の会も例外ではなく、参加メンバーが昨年よりも多く、A班とB班は二つの班に分かれてのパトロールとなった。

無線にて最初の経過報告。しばらく歩き、旧道と馬車の分岐点に立ち、二手に分かれてパトロールを行った。私を含めた五名は、距離が長い、道幅が広く、傾斜が緩やかな馬車道を選択。一方の五名は旧道を選択。馬車道の方では、青い空と緑の木々を堪能した。その頃、登っていく中で後からスタートのB班が追いついてきた。予想よりも早く追いつかれて驚き、十時過ぎに旧道チームと再度合流し、二度目の休憩。旧道チームと同じくらい合流でひとまず安心。加えて、段々と暑くなってきたことから、上着をリュックにし、再度山行開始。B班は、峰の辻に直行することから、我々B班と解散。その後、くろがね小屋に向かう。十一時位にくろがね小屋に到着し、一旦休憩。無線にて経過報告。「くろがね小屋」は建て替えを行うことから四月より休業中。現状、まだ実感が湧かない部分もあるが、多くの登山客からも親しまれており、新しく再開するのを楽しみにしているところである。くろがね小屋から少し歩いたところでお昼休憩を十二時半くらいまで取り、無線にて報告。その頃、A班のM.S. あだたらコンテストが無事終了した旨、報告を受ける。峰の辻に向か

って再度登り始める。峰の辻に十三時十五分くらい到着。その頃、C班も峰の辻に到着。頂上から下山してくる人から話を聞いてみるとやはり風が強いとのこと。ここで一枚着込むべき所であったが、タイミングを逃し、少し風の強さを気にしつつも山頂に向かう。風は強かったが、十四時位に無事山頂に到着。山頂にて山の会写真撮影。福島県内出身のタレントで、安達太良山の観光大使のなすびさんも参加。多くの登山客と写真撮影していることから福島県の人気を改めて実感した。山頂での休憩を程よく取ったところで、B班は奥岳に向かって下山開始。大斜面付近の残雪もあり、転ばないように慎重に歩いていく。薬師岳を経由し、ロープウェイにて奥岳に十五時三十分頃到着。無事パトロール終了。天候、メンバーに恵まれ、素晴らしいパトロールとなった。今回、B班にて先頭で歩き、時間配分等難しいところもあったが、班の皆様との協力があってこそ、予定通りのパトロールの任務だけでなく、非常に貴重な時間を過ごすことができた。反省点も多少はあるが、次回以降のパトロール、登山整備、山行等に活かしていきたい。

# C班

報告・□□□□

八時集合で、六名が参加予定であったが、仕事の都合で別行動となり、五名となった。皆予定時刻前に集まって登山者の動きを見ていたが、上の駐車場に四台、下の方に十台位が駐車してあり、早く登った様であった。福島交通のバスも来たが昔の様でない。今年も二名の客が下りて来た。登山ボストが見づらかったので探していたので案内する。昨年はこのコース、事務局と三名で登ったが、今年は何人あるかと考えていたら五名と賑やかになり安心した。登山者も見当たらずなくなり私達も出発する。

目的は「山開きのお祭が安全安心で登山者が山を楽しむ無事下山する事にある」、さっそく塩沢登山口から入山。山頂までくろがね小屋、峰の辻、牛ノ背經由山頂と、コースタイムは三時間二十五分、安達太良山トレッキングマップにある(休憩時間除く)。僧橋が前年事務局と測ってきた。ハシゴ可搬式で作られた。立派に完成していた。分岐に合流、上がってきた登山者が多くなる。山頂でのミズコンテストも終り、下ってきている様子。くろがね小屋に着し、十

登って行く。私達もひと息をつけながら、奥の方も確認して出る。八幡滝に下がり、水量は少し多めで、滝の白さが時間的にも強調されて眩しく極めて美しい。ここから昔は左岸へと飛んで渡り、僧橋へと霧降の滝サイドより登ったものだ。岩盤の川で滑って流されたらアウトである。又左岸までは私は刈払いで降りて来た思い出がある。今は廃道となり、広場と本道を会員が整備している。トウゴクミツパツツジが登山者を見送ってくれている。天狗岩下へと橋は無くとも渡渉は、うまく飛び石を見つけて渡るのが登山の楽しみでもある。大きな大木が根床ごと登山道を塞いでいる。前は下を潜ったが、通過不可となり当会の迂回路作業によりスムーズになったが、倒木の処理は安全に作業する為に入念な作業計画を要する。

毎年四月二十九日はこのコースの整備日である。今年も雪が珍しく無く雪を探す様だ。天狗の庭も近年は人も入り無く自然も戻ってきている。湯川溪谷最後の僧橋が前年事務局と測ってきた。ハシゴ可搬式で作られた。立派に完成していた。分岐に合流、上がってきた登山者が多くなる。山頂でのミズコンテストも終り、下ってきている様子。くろがね小屋に着し、十

一時四十分であった。オレソングを着た、環境省の関係者がトレブースを二基設置して案内していた。詳細は後で事務局の方からあると思う。

お昼に丁度だったので、小屋前の高台で十数名の登山者の中で昼食とした。続々と下がっていく子供連れの家族も見られる。これより山頂へと少しブースターを起動して早く登る事になった。自衛隊さんも下がってきた。「山の会さん」こ苦勞様と下がっていった。

峰の辻で奥岳くろがね經由班と合流し、互いの健脚振りを見せ合う。間もなく先班は牛ノ背へと向、直登はしない様だ。私達も五分配休み周囲の登山者の状況を確認して、又少なくなり、峰の辻を後にする。途中で風がすこく強いとの話もあり、予感していたが、沼の平からの乗越し、牛ノ背下より風が強くなってきた。着ている物にもよるが体温を奪われるので、注意したいし、早目に防風着を使用したのもである。牛ノ背分岐では体も流される。皆風を上手に避けて面積を流動可している。磐梯山、吾妻山も火山性の地震も多くなり、このトライアングル地下のマグマも気になる。山頂に着き、会員皆さん方と無事合流し、山開きを祝い合った。



山頂で、4年ぶりのミズコンテスト、端から端まで

四月二十日(木)

個人山行

(表郷村) 花まっりの天狗山

報告・□□□□



妻の退院後、家に引き籠もり気味。外出させたいと天狗山へ誘う。二人だけでは何時もと同じ、何時もの共を誘い、協力して貰う。車の中でも何時もと違う様だ。大きな駐車場平日でも二、三十台位。協力金を払い、案内地図を貰い入山する。カタクリは終り、今は二輪草やヤマブキ草が見頃。道や沢、山至るところに咲き、楽しみながら歩く。カメラマンなども数人いた。尾根からは満開の山桜や新緑を楽しみ、山頂へ。だいぶ疲れた様な妻だが、楽しい昼食の会話で元気になった様だ。下山後、源泉掛け流しの温泉に入り、帰宅する。

五月四日(木)

個人山行

(新潟県阿賀野市) 五頭山

報告・□□□□



元山の会の□□さんと、友の□□さん、三人で行く。朝五時出発、登山口の村杉登山口へ。ゴルフデンウィークとあって多くの登山者。前回、会津の友に連れられて来たコース、旧スキー場コースを登り、どんぐりの森キャンプ場へ下るコース。九時入山届を出し出発する。歩き易い登山道を何回かジグザクを過ぎ綺麗なブナ林を過ぎると、五合目である。前回は夢中で付いて行ったので、よく覚えて居ない、だが、五、六合目あたりから登山道の両脇に咲いている「イワウチワ」だけか思い、出に残っている。又行って見たいと今回

五月十一日(木)

福島民報「みんなのひろば」から

山の仲間と飲み、腰痛吹き飛ばす

腰痛吹き飛ばす

□□□□

私たちが学生の頃、山好きが集まって「あだたら山の会」を立ち上げた。その後、私は他県に就職したの自然退会になっていった。会は継続していて、定年退職後に改めて入会した。コロナ禍でも総会があったが、参加していなかった。今回は総会後に懇親会もあるというので、参加してみた。懇親会は久しぶりで盛大に行われた。えいていたが、酒の勢いもあってか、仲間と楽しく話している腰痛もよくなり、安達太良山開きに参加することにした。それどころか、あだたら山の会創立六十五周年記念事業の立山登山にも参加することにした。皆さんと山の話で盛り上がり、腰痛の不安は消えてしまったようだ。ぶざまな姿は友達に見せたくないという気持ちがあり、登山は控えていたが、そんな気持ち

計画したのだった。

六合目を過ぎるとアップダウンの連続、七合目で始めて「イワウチワ」と合う。疲れもあり休憩を取る。八合目では呼吸も苦しく脈も乱れている。五頭山最初のピーク「五ノ峰」へ。十二時に着く予定より三十分遅れている。昼食後、これからコースを地図を見、立ち上がるうとした時、立ちくらみ、後ろに倒れた。幸い後ろにいた友に助けられ、大事に至らず済んだ。一時間程休み、記念写真を撮り、「三ノ峰」へ向かう。呼吸の方も烈しいが、廻りに咲いている「イワウチワ」を

見、写真を撮り、「三ノ峰」へ。「二ノ峰」、「一ノ峰」への分岐点でもあり、避難小屋もある。「一、二ノ峰」を諦め、下山する事に成る。下山は急な尾根、下り階段も多く、途中水場の案内のある場所で休憩を取り、キャンプ場への下りも階段の連続。足許に気を付けキャンプ場へ下山。トイレ休憩を取り、駐車場へ帰り、五頭温泉郷の出湯温泉の共同浴場で風呂に入り、スパカーから流れる五時のチャイムと同じに帰路に付く。八時三十分、帰松。各家に友を送り九時帰宅する。往復約三六〇あり、体調管理の大切さを感じさせられた山行であった。

は吹き飛んだようだ。腰痛も気の持ちようなのだろうか。不安はあるもの

の何とかやる気になった。立山に登るのかと思うと、武者震いする。



山開きの仲間、あだたらアマチュア無線クラブ 14時56分

編集後記 四一五号

◆今年の山開き、咲いていた花、東シヤクナゲ、端取草など。例年なら六月以降の花、登山道の雪も少なかった。山の春としては暖か過ぎる。

- ◆くるがね小屋休止看板、鳥川橋だけで見えなかつた。トイレ使えないという問題なので、もっと見やすい方がよい。
- ◆山開き反省会の写真は次号公開です。
- ◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。



トイレ無し看板



今年のペナント

た山行であった。